

ソーシャル PM 実践ワークショップ 2019 第 2 回「ソーシャル・ステークホルダーマネジメント実践」実施報告

ソーシャル PM 研究会は社会課題の解決を目的とする活動（ソーシャル・プロジェクト）のマネジメント手法の開発・普及に取り組んでいます。その成果を基に 2019 年では 3 回の「ソーシャル PM 実践ワークショップ」の開催を企画しています。

今回は第 2 回目として「ソーシャル・ステークホルダーマネジメント実践」を下記のとおり開催しました。

- ◆開催日時：2019年4月20日（土）9時30分～17時30分
- ◆会場：PMI 日本支部セミナールーム（水天宮前）

今回の実践ワークショップでは、ソーシャル活動に関わる多様なステークホルダーとどのように協働して、社会課題の解決に繋げていくのか、をテーマに取り上げました。ソーシャル活動は一般的な企業活動に比べて、関係するステークホルダーが多様になり、そのニーズも複雑になります。そのような特徴を持つステークホルダーを効果的にマネジメントする手法に関して、講師・参加者・運営スタッフが一体となってワークショップに取り組みました。

午前は、ソーシャル・ステークホルダーマネジメント手法を「理解する」ための講義が中心でした。①ステークホルダー登録簿 ②エレベータピッチ ③ロジックモデル ④欲求連鎖分析 ⑤フィアレスチェンジ の5つの手法を取り上げました。大久保講師から、それぞれの手法の目的・効果・利用シーン、作成方法、ソーシャル活動に適用する場合の注意点などの講義があり、参加者のみなさまに、それぞれのマネジメント手法に関して、そのコンセプトを理解して頂きました。



午後は、頭で理解したソーシャル・ステークホルダーマネジメント手法を「使える」ようになるための事例演習です。参加者は、4つのグループに分かれ、「親の介護に不安を抱く地域の主婦のコミュニティ活動立ち上げ」を題材にした事例を基に、グループワークを佐分利講師のリードで行いました。各グループでは事例のストーリーに沿って発生する問題に対して、午前の講義で取り上げられたマネジメント手法を使って解決を図っていました。演習中、参加者はソーシャル活動に関わるステークホルダーの多様性とそれぞれのステークホルダーの目的・ニーズの違いに頭を悩ませ、各グループで喧々諤々のディスカッションが展開されていました。また、演習の課題ごとに、各グループによる発表が行われましたが、毎回、各グループとも趣向をこらしたプレゼンを行い（あるグループでは振付も）、大いに盛り上がり、無事4グループとも最終成果物まで仕上げる事ができま

した。

今回の実践ワークショップを通じて、参加者の方々には、取り上げられたソーシャル・ステークホルダーマネジメント手法の有効性を実感して頂けたように考えます。また、ソーシャル活動のステークホルダーマネジメントの難しさ、また手法を「理解する」だけでなく実際に「使える」ようになることの難しさも実感して頂けたと感じます。参加者の中には、実際にソーシャル活動に取り組んでいる方も何名かおられ、そのような方々から「是非、今日学んだ手法を自分の活動に活用したい」という声も聞かれました。参加者の方々の今後の活動に今回の実践ワークショップで得られた知識・スキルがお役に立つよう、ソーシャルPM研究会一同、心より願っております。また、実際の活動を進めていくなかで、何かお困りのことがございましたら、ご遠慮なくご相談ください。

第3回は「SDGs 達成を目指した CSV（共有価値創造）の取組み」です。社会価値と経済価値を同時に追求して実現する CSV の意義を新規事業の立ち上げを行う演習を通じて皆さんに考えていただく予定です。是非ともご参加ください。

ソーシャルPM研究会 普及活動 WG 担当